

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成		(2)授業や行事、部活動に活力を持って主体的に取り組む生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成				
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学 力 の 向 上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的な知識・技能を習得する。</li> <li>授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。</li> <li>小中連携を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が指導案を作成し公開授業を行う。</li> <li>スモールステップの学習に努め、復習演習の時間を確保する。</li> <li>全国学力学習状況調査の分析結果を各小学校に提供する。</li> <li>ICT活用の授業作りに努める。</li> <li>小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。</li> <li>シラバスを活用し、適切に評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上を目指す。また、「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答した割合が85%以上になる。</li> <li>わかりやすい工夫した授業を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わかりやすい授業に努めている」と回答した保護者は85.8%と高率であるが、生徒が「授業はわかりやすく楽しい」とした回答は目標値に1.5P届いていない。(78.5%)</li> <li>「適切に評価している」との回答は目標値を上回っており、シラバスを用いた効果が認められる。来年度は評価の仕方が変わるので、慎重に行う必要がある。(94.9%)</li> <li>週末課題を事前に知らせることにより、家庭学習の習慣が定着している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もシラバスを活用し、学期の初めに評価の方法を説明し、適切に評価を行う。</li> <li>本時の目標に対する振り返りを行う。</li> <li>タブレットなど、ICT機器の研修を行い、授業においてICT機器の利用率を高めていく。</li> <li>授業や学習優先において、より質問しやすい環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好と判断・評価する</li> <li>ICT機器の活用については、慣れることを中心にしながらも、手順だけでなく、応用的な使い方も教えて欲しい。</li> <li>全教員の公開授業などにより、授業スキルの高い教員がそろい、その実績が生徒の授業態度の高まりとして、確実な成果が見られる。</li> <li>コロナ禍での対応の難しさがあったが、柔軟で着実な対応が評価できる。</li> </ul>
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。</li> <li>読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。</li> <li>生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物投影機や電子黒板などのICT機器を活用して、授業のユニバーサルデザイン化を図る。</li> <li>コグトレを週に1回導入し、集中力や認知力の向上を目指す。</li> <li>1分間スピーチの発表会を学年を越えて実施する。</li> <li>図書館まつりなどの読書量向上にむけたイベントを周知徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き評価項目「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている」における評価を85%以上に維持する。</li> <li>教員、生徒共にコグトレに慣れ定着させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを導入した調べ学習や新聞作成に取り組んだこと、ZOOMを使った小学校との交流をしたこと、オープンスクールでZOOMを使った1分間スピーチをしたことが評価され、生徒、保護者共に前年度を上回るポイントになった。</li> <li>図書指導の充実や読書量の増加も、生徒の思考力の育成に繋がっている。異年齢交流が出来ていないのが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢交流をZOOMを活用して行う(1分間スピーチの3年と1年の交流or1分間スピーチの3学年交流会など)。</li> <li>オープンスクールや授業参観で、総合や学活の参観を導入する(グループでの課題解決学習やタブレットの活用の場面、行事の事前、事後学習の様子など)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好と判断・評価する</li> <li>若い人たちによる「デジタル」的発想を入れながら、上手くタブレットを使いこなして欲しい。</li> <li>学級運営や1分間スピーチの実施など、全校一斉の指導方法が見られ、教員間チームワークの指導体制の強固さが、生徒の思考・判断・表現等の育成に顕著な効果として現れている。</li> <li>今後、より生徒の主体的・対話的な学習形態を設定し、深い思考や的確な判断及び豊かな表現などを育む指導の充実を期待する。</li> </ul>
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。</li> <li>家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスを有効活用する。</li> <li>宿題などを通して、自主学習をする習慣を身につけさせる。</li> <li>携帯電話やスマートフォンなどを所持することのメリットやデメリット、家庭内でのルールづくりの重要性などを、小中の連携により、共通認識を図り、家庭に促す。</li> <li>目標やねらいを明確にし、振り返りを取り入れた授業力向上に努める。</li> <li>週末課題を毎週設定し、未提出者には学習優先の日を有効に活用するよう声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおいて「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答した割合が65%以上になる。</li> <li>携帯電話やスマートフォンの使い方について、「約束を決めている」と回答した割合を85%以上にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業で積極的に発表しようとしている」という項目では、肯定的な回答が前年度より1.1%減少し、56.3%であった。</li> <li>「授業はわかりやすく楽しい」という問いに対しての肯定的な回答は78.5%に及ぶにも関わらず、「発表」に限定すると割合が下がる。</li> <li>「家庭で勉強する習慣がある」という問いへの肯定的な回答は84.2%に及んだ。</li> <li>スマートフォン等の使い方について「約束を決めている」と回答した割合は84.6%であった。概ね目標は達成できているが、家庭学習の妨げとならないよう、継続して正しい使い方については呼びかけが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「性格上、発表することは難しいが自主学習なら頑張ってみよう」という生徒も存在するため、発表の有無だけに着目するのではなく個々の特性に応じてそれぞれの生徒が自信を持てるようなフォローに努める。</li> <li>家庭学習においては、週末課題の設定等も効果が出ていると思われるため、課題内容も吟味しながら今後も継続する。</li> <li>主体的な学びを取り入れたグループワーク等を通して、自分の意見をまとめ、伝える力を培える授業展開に努める。</li> <li>授業における、タブレット等のICT機器の活用について工夫をし、生徒の学習意欲の向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において、先生方のご苦勞に感謝する。</li> <li>生徒と教員の信頼関係が概観され、生徒の人間形成を大切に指導から、生徒個々の学習意欲の向上が顕著である。</li> <li>アンケート結果から、コロナ禍の状況下でも生徒育成の成果が明確に見られ、教育効果の浸透が顕著で評価できる。</li> <li>今後、西中の求める生徒像をよりフォーカスして、生徒の学習意欲を向上させる方法についての研修等を、設定されることを求める。</li> </ul>

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～						
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成		(2)授業や行事、部活動に活力を持って主体的に取り組む生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成				
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と教師間の信頼関係の構築</li> <li>学級経営の充実。</li> <li>基本的生活習慣の確立。</li> <li>規範意識の向上を目指した指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員朝礼時に職員間で情報交換を行い、その日の生徒指導に生かす。</li> <li>小学校に出向き、英語の出前授業を行う。</li> <li>Q-Uを実施し、具体的対応を考え、学級経営に生かす。</li> <li>道徳ローテーション授業の実施。</li> <li>総合的な学習の時間にきょうだい学級での取り組みを取り入れる。</li> <li>きょうだい学級での取り組みでは、合唱練習や生徒会活動を通して、上級生が下級生の見本となり、縦のつながりを実感できる取り組みを行う。</li> <li>1分間スピーチを取り入れ、人前で発表できる機会を設ける。</li> <li>小中連携の研修などで、児童生徒の情報について共有する。</li> <li>教育相談週間をもうけ、生徒の実態把握を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおいて「自分に自信を持って行動できることがある。他の人を思いやる気持ちになれる」について、85%を上回る。</li> <li>保護者の回答で「子どもが自信をもって生活している。他の人を思いやることができる」について85%以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分に自信を持って行動できる」項目については、89.5%に達し、目標を達成している。</li> <li>保護者の「子供が自信をもって生活している」も88.4%に達し、目標を達成している。</li> <li>「私は家で役立つ仕事をしている」の肯定的意見は68.5%であり課題といえる。</li> <li>「夢や将来活動したいことやつきたい職業がある」の肯定的意見は67.1%であり、課題といえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校での様子を見ている限り、大多数の生徒が責任を持って清掃活動などに取り組んでいる。そのため、家庭でどの程度手伝いができていけば自己肯定感につながるのかが見えにくくなっている。対策として、道徳や普段の授業、ホームルームなどで情報交換を行い、自分の行いを見直す時間を確保する。</li> <li>将来の夢や職業は、着地点が見えづらいう上に、限定的すぎるため、自信を持ってない状況の原因となっている。そのため、スピーチの内容を「将来の夢」と限定するのではなく、「将来どんな人でありたいか」など、抽象的な内容にし、幅を持たせることで自信につながるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好と判断・評価する</li> <li>職業の幅は広がったものの、コロナ禍で不安定要素が露呈した事も事実。改善策の様なアプローチは大切だと思う。</li> <li>知識としての進路だけでなく、生徒との対話を大切にしたい相談の要素が増えるような取り組みを増やして欲しい。</li> <li>アンケート結果から、生徒・保護者の自尊感情の高さが認められる。この結果は、これまでの教師間の情報交換の徹底、学級経営の充実、道徳の授業の丁寧さ、きょうだい学級の充実、小中連携の推進、温かい教育相談の推進など、地道な取り組みの成果と伺える。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題への対応力の向上に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎学期、教育相談週間をもうけ、生徒の声に耳を傾ける。</li> <li>充実感のある行事を行う。</li> <li>Q-Uのアンケートの結果を活用し、学級運営に生かす。</li> <li>ニコちゃんマークアンケート、学校生活アンケート、いじめ・体罰調査アンケートを行い、早期に実態把握を行う。</li> <li>いじめ問題に関する道徳教材を使い、生徒がいじめ問題について深く考える時間をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合を85%以上にする。</li> <li>「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合を85%以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分を大切にすることや、他の人への思いやり、いじめを許さないことについて教えてもらっている」という生徒の割合が96.3%となり、目標を上回った。</li> <li>「子どもは楽しく学校に行っている」という保護者の割合が88.1%となり、目標を上回った。この結果より、一定の指導の効果をj得ることができた。</li> <li>取り組みが形骸化しないように毎年の見直しをきちんと行い、定着を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間で「報告、連絡、相談」を徹底し、SSWやSCだけでなく、外部の関係機関とも連携して対応を強化していく。</li> <li>毎週の生徒指導委員会や毎月の不登校対策委員会、毎学期のいじめ対策委員会で情報交換を密に行い、未然防止、早期発見、早期対応を丁寧に行えるようにしていく。</li> <li>生徒会を中心に、いじめ問題に関する情報を発信し、いじめ防止の啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好と判断・評価する</li> <li>生徒の「学校へ行くのが楽しい」が高得点ながら3ポイント下がっているのが気になる。</li> <li>自尊感情の高まりと、いじめの減少がリンクしていけばいいと思う。</li> <li>行事や学校生活で生徒を前面に立たせる体制をつくり、教員個々に生徒を大切にしている姿勢が、西中の生徒指導の特徴で、その実践は確実で立派である。</li> <li>生徒が生き生き生活できる学級作りの範を感じる。これは学校運営の確かな成果でもある。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。</li> <li>保健管理や啓発による丈夫な体づくりを行う。</li> <li>校内の事故防止に努める。</li> <li>食に関する指導に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりを活用し、健康の保持増進に関心を持たせる。</li> <li>委員会活動等を活用し規則正しい生活についての啓発を行う。</li> <li>保健体育の授業で毎時間補強運動、柔軟を実施し、体力の向上と怪我防止につなげる。</li> <li>スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の掲示を行い、意欲向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の「早寝早起き朝食を摂るなど規則正しい生活を心がける」の評価を90%以上にする。</li> <li>保護者における保健だよりの認識を90%以上に維持する。</li> <li>生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がける」の割合を85%以上にする。</li> <li>生徒における保健だよりの認識を90%以上に維持する。</li> <li>スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年より更に上回るために体育の授業や課題活動を計画的に進める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウィルスの影響で休校期間が長引いたこともあってか、保護者の「早寝・早起き、規則正しい生活を心がけている」の割合が78%と目標の90%に大幅に届かなかった。</li> <li>生徒の「早寝早起き朝ご飯、規則正しい生活を心がけている」の割合が87%と、保護者から見た生徒の実態とは差があるようである。</li> <li>保護者、生徒共に、保健だよりの認識は98%と高い割合を維持できた。</li> <li>今年度はコロナウィルス感染予防の面から、スポーツテストは実施できなかったが、密を避けた上で、体力向上に努めることができた。また、タイムトライアルの成績上位者を掲示し、生徒の意欲を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健だよりの認識は保護者生徒ともに高いので、継続して健康保持増進について啓発する。さらに、保護者と生徒との間で早寝早起き朝ご飯の重要性についての認識に差があるため、引き続き呼びかける必要がある。</li> <li>月ごとの委員会活動等を活用し、健康の保持増進についての啓発を行う。</li> <li>担任に加え、部活動においても個々への呼びかけを意識して行うことで、「早寝早起き朝ご飯」の意識付けを行う。</li> <li>保健体育の授業では、運動と食事、睡眠の重要性を理解させ、実践する意欲を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において、先生方のご苦労に感謝する。</li> <li>良好と判断・評価する</li> <li>効率的な学習と、十分な睡眠が学習能力を高める事が出来るようなデータがあれば良い。</li> <li>コロナ感染拡大の影響で、体力向上の授業や部活動及び行事などに制限が課せられた。その状況下で、学校は柔軟によく考えて、実施可能な取り組みを実施し、アンケート結果からも、学校対応に対する理解と肯定的で良い評価が見られる。</li> </ul>

令和2年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		あらゆることに活力にあふれた生徒の育成 ～自ら学び、自ら行動する生徒の育成～					
重点目標		(1)進んで学習に励む生徒の育成 (3)将来の夢や目標を抱き、その実現に向けて挑戦する生徒の育成 (5)規範意識や基本的生活習慣が身についた生徒の育成			(2)授業や行事、部活動に活力を持って主体的に取り組む生徒の育成 (4)自尊感情と他者への思いやりの心を持つ生徒の育成		
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。</li> <li>生徒会などを通じて、ボランティアを募集し、地域の行事などに積極的に参加する。</li> <li>土曜オープンスクールには、校区内の小3～小6の児童や保護者にも来校を願う。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。</li> <li>教職員とPTA役員との顔の見えるよりよい関係づくり。</li> <li>1、2年から進路に関する情報を適宜発信していく。</li> <li>ホームページや学校だより、学年だよりなどの内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。</li> <li>地域の方に土曜学習や放課後学習などへの協力者登録を進める。</li> <li>緊急時の連絡をホームページとメールを使って発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信を継続する。時々、ホームページにアクセスする家庭50%以上を目標にする。</li> <li>地域と学校との間で双方向の活動が行われている状況を継続する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページにアクセスした家庭は約57%となり、目標の50%以上を達成している。</li> <li>ホームページは適宜更新している。</li> <li>学校だよりや学年だよりなどの連絡文書も、約77.7%の家庭がよく読むと回答している。</li> <li>教職員が校内教育活動に専念できるように、親が我が子の行動に責任をもって子育てに励むPTAシャキッと運動を粘り強く継続している。職員とPTA役員の協力体制は大変良好である。</li> <li>コロナ禍により、朝読書の時間にボランティアによる読み聞かせを行うことができなかった。</li> <li>メール配信によりコロナに伴う緊急時の連絡が即時に行えている。</li> <li>コロナ禍でも、感染症対策を行い、オープンスクールを実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムリーに学校の様子を、その都度ホームページにあげる。</li> <li>緊急性の高い連絡はメール配信とともに、ホームページに掲載する。</li> <li>情報を発信するプリント類などは内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう継続して指導する。</li> <li>緊急時の連絡がホームページにアップされていることを学年通信などで周知する。</li> <li>全家庭が緊急メールを受信できるよう保護者にメール登録してもらうよう引き続き依頼する。</li> <li>コロナが収束した際には、以前のような積極的な学校公開に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ収束後の積極的な学校公開・情報発信に同意。</li> <li>新年度になってからの先生方の顔と名前が一致しない。PTAの広報誌での紹介を願う。</li> <li>PTA活動ができていない。「あおぞら」未発行、先生方の「顔」がわからない。</li> <li>コロナ禍でも「何が出来るか」を追求し続けて頂き感謝。</li> <li>学校長の学校だよりによる広報活動と、学校運営での人間性の魅力などから、透明性のある豊かな学校運営が実現し、地域や保護者の支援や協力を受け、理想の生徒育成の教育環境が概観される。</li> <li>今後、現況の方向性を大切に継続するとともに、個々の内容の刷新と一層の充実を期待する。</li> </ul>
<p>次年度に向けた重点的な改善点</p> <p>学力の向上については本年度も引き続き高評価であるが、学習指導要領実施に伴う授業改善やタブレットの導入など、今後新たな取り組みや工夫が求められる。次年度は、新型コロナウイルス感染症対策を取りながらできる教育活動をさらに工夫し、教員一人ひとりの授業力向上や意識改革を進める。現在、継続して取り組んでいる全教員による授業公開や年2回の授業研究会も恒常化し、形骸化することなく目的を明確にすることで、取り組み強化につなげていく。</p> <p>また、学校の抱える課題を学校運営協議会と共有し、課題解決に向けPDCAサイクルを繰り返す上でも、学校運営協議会委員と教職員が一層コミュニケーションを図っていく必要がある。</p>							

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った